

業務用油だき可搬形ヒータ熱風式間接形

ホットガン
HOTGUN CJI-T

ホットガンシージェーツーティ

取扱説明書



- この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒータです。
- この取扱説明書をよく読んでヒータを正しくお使いください。
- 取扱説明書は必ず保管しておいてください。



ガソリン厳禁



巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

はじめにお読みください

このたびは、シズオカ製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
より安全に、また良好な状態でお使いいただくために、この「取扱説明書」をお読みになり、正しくお使いください。

安全上のご注意

ご使用前に「安全のため必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、 危険  警告  注意に区分して表示してあります。



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの




警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、または火災の可能性が想定されるもの



注意







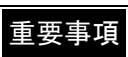

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や、物的損害の発生が想定されるもの

また、 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく所有者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

■ 図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。

も く じ




⚠安全のため必ずお守りください（設置上の注意）	3
⚠安全のため必ずお守りください（使用上の注意）	6
本体警告ラベル貼付位置	11
各部のなまえ	12
使用前の準備と確認	13
使い方	14
点検・手入れのしかた	23
定期点検	26
異常のとき	27
保管のしかた	28
消耗部品	27
廃棄について	29
別売部品	30
アフターサービス	31
仕様	32

安全のため必ずお守りください


設置上の注意（危険／警告）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を設置する前にお読みになり、必ずお守りください。

危険

	<p>排気ガスは必ず屋外へ排出 排気ガスは煙突を設置し、必ず屋外へ排出してください。 一酸化炭素などが発生し、死亡事故につながり危険です。</p> <p>空気取入口を必ず設ける 新鮮な燃焼空気が常に補給できるように、空気取入口を必ず設けてください。 酸素不足により、死亡事故につながり危険です。</p>
	<p>可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使っているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に設置しないでください。爆発、火災の原因になります。</p>
	<p>改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。</p>

警告

	<p>水のかかるところ、湿気の多いところへの設置禁止 本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところには設置しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。 ※設置に適さない場所 例：プール施設等の高湿環境下</p> <p>車両への据え付け、積載したままでの使用禁止 車両への据え付けや積載したままで使用しないでください。故障や火災の原因になります。</p>
---	--

安全のため必ずお守りください

設置上の注意（注意）



注意



振動の激しいところや水平でないところでの設置禁止

振動がなく水平な場所に設置してください。振動が激しい場所や水平でない場所に設置すると、ヒータが移動したり転倒したりして、火災の原因になります。

通路や子供のいる場所での設置に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などには設置しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因になります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所には設置しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所には設置しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等の事故の恐れがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところには設置しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因になります。



壁・天井等の煙突貫通部は断熱する

壁及び天井等の煙突貫通部は、不燃材料のめがね石を設けてください。火災の原因になります。

安全のため必ずお守りください

設置上の注意（注意）



煙突は確実に固定する

煙突が風等でぐらつかないようにし、確実に固定してください。

煙突が倒れてケガ・火災等の原因になります。

煙突の横引き・曲りは少なくする

煙突の横引き部分と曲りは抵抗になるので、横引き部分はできるだけ短く、曲りは少なくしてください。

熱交換器内にすすが付着したり、煙突より煙が出たりして、異常燃焼・火災の原因になります。

動物飼育施設での設置に注意

動物飼育施設での使用時は、下記内容が想定されますので、特に注意して設置してください。

- ・ 敷きワラ、オガ粉等の可燃物が多く**火災の恐れ**がありますので、周囲の可燃物には特に注意してください。
- ・ 換気が不十分になると**酸欠**や**一酸化炭素中毒**により**家畜が死亡**する恐れがありますので、使用中は1時間に1～2回換気をしてください。
- ・ 安全装置の作動などによりヒータが自動消火し**家畜が凍死**する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。
- ・ 家畜がヒータを倒したり、壊す等して、**火災の原因**になったり、家畜が長時間温風にあたり**低温**や**けど**や**脱水症状**になる恐れがありますので、家畜がヒータに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。

手の挟み込み注意





ヒータを荷台等へ積み降ろしする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合わせて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、**ケガの原因**になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（危険）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。

危険

	ガソリン厳禁 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使っているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。 段積燃焼厳禁 段積みした状態では決して燃焼させないでください。 爆発、火災、やけど等の原因になり危険です。
	換気必要 使用中は1時間に1~2回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。 密閉された空間での使用厳禁 換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。
	改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（警告）



警告



変質灯油、不純灯油使用厳禁

変質灯油や不純灯油を使用すると異常燃焼や火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱風の当たるところに放置しないでください。熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し危険です。

可燃性粉塵厳禁

可燃性粉塵（木くず、紙くず、繊維くずなど）が発生するところでは使用しないでください。ヒータに吸い込まれると、加熱され火の粉になって吹き出されるので、火災の原因になります。

水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止

本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。 ※ご使用に適さない場所 例：プール施設等の高湿環境下

空気取入口及び熱風吹出口をふさがない

熱風吹出口や空気取入口をふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。

電源コードを破損させたり加工しない

電源コードに重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工しないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



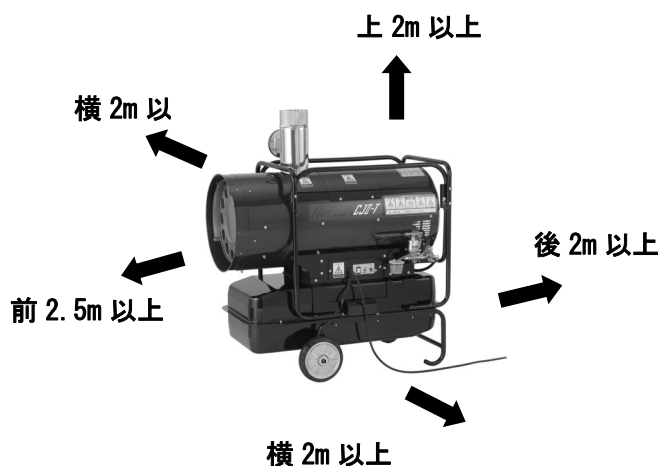
回転物に注意

運転中、内部の送風ファン、燃焼ファンは高速で回転しています。点検時は必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業を行ってください。また、空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。送風ファンに触れるとケガの原因になります。



周囲の可燃物に注意

ヒータ周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。火災の原因になります。



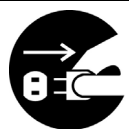
安全のため必ずお守りください

使用上の注意（警告）



正常燃焼の確認

使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。（23 ページの「点検・手入れのしかた」を参照）炎の飛び出し、におい、すすの発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店へ連絡してください。異常のまま使用を続けると、ヒータ本体の焼損や火災の原因になります。



点検、手入れ時、電源プラグを抜く

点検、手入れ時及びオプション部品の取付の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）

注意



振動の激しいところや水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒータが移動したり転倒したりして、火災の原因になります。

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因になります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等の事故の恐れがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因になります。

点火操作の繰返し禁止

燃料切れ以外で点火操作を3回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い上げの販売店にご連絡願います。点火操作を4回以上繰り返して点火した時には、煙突より黒煙が出ることがあります。また、火災の原因にもなります。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、焼損の原因になります。

燃焼中の移動禁止

ヒータを火のついたまま移動しないでください。やけどの恐れがあります。転倒すると火災の原因になります。

灯油を入れたまま保管、廃棄しない

保管及び廃棄するときは必ず油タンクを空にしてください。油タンク内の灯油が漏れると環境汚染や火災の原因になります。また、長期間保管した灯油を使用すると不完全燃焼の原因にもなります。

点火操作後の熱風吹出口接近禁止

点火操作をした後、熱風吹出口をのぞき込まないでください。やけどの恐れがあります。



やけどに注意

燃焼中や消火直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などは100℃以上の高温になっています。

燃焼中及び消火後30分間は手をふれないでください。やけどの恐れがあります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）



電源に注意

電源電圧は AC100±10V の範囲内で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。**故障や感電、火災の原因になります。**

動物飼育施設での使用に注意

動物飼育施設での使用時は、下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。

- ・敷きワラ、オガ粉等の可燃物が多く**火災の恐れ**がありますので、周囲の可燃物には特に注意してください。
- ・換気が不十分になると**酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡する恐れ**がありますので、使用中は1時間に1～2回換気をしてください。
- ・安全装置の作動などによりヒータが自動消火し**家畜が凍死する場合**も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。
- ・家畜がヒータを倒したり、壊す等して、**火災の原因**になったり、家畜が長時間温風にあたり**低温やけどや脱水症状**になる恐れがありますので、家畜がヒータに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。

周囲温度に注意

周囲温度は-20℃～40℃の範囲で使用してください。40℃を超える温度で使用するとヒータが過熱され、**火災の原因**になります。

給油時消火

給油時は必ず消火し、ヒータが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると**火災・やけどの原因**になります。

運転スイッチの切り忘れに注意

サーモスタットまたはタイマーを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。（サーモスタット、タイマーはオプション）ヒータを使用しない時は、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。**火災の原因**になります。

サーモスタット感温部設定場所に注意

サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON(燃焼) / OFF(消火) を繰り返し、故障の原因になります。

自動車運搬時に注意

自動車に積載して運搬するときは、灯油を抜き、転倒防止の処置を行ってください。転倒や、振動により油タンク内の灯油が漏れると**火災の原因**になります。

手の挟み込み注意

ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、**ケガの原因**になります。

点検時保護手袋着用

ヒータの清掃や炎検出器の点検の際は、**ケガの防止のため**、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

保管時の段積みは2段まで

保管時にヒータ本体を段積みする場合は2段以下とし、必ず転倒防止の処置を行ってください。転倒し、**ケガの恐れ**があります。

標高の高いところでの使用禁止




標高 1000m 以下で使用してください。1000m を超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により異常燃焼の原因になります。

電源コードは先端のプラグを持って抜く

コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、**発熱・発火などの原因**になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）

	<p>消火の確認 消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、火災の原因になります。</p> <p>吊り上げ時注意 吊り上げ時は油タンクから灯油を抜き、4点吊りしてください。 吊り上げ方法に不備があると、転倒や落下によるケガの原因になります。 また、揺れにより油タンク内の灯油が漏れると火災の原因になります。</p>
	<p>使用時以外は電源プラグを抜く 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。</p>
	<p>アースは必ず接地 ヒータを使用するときはアースコードを必ず接地してください。（19 ページの「点火のしかた」を参照）感電の原因になります。</p>

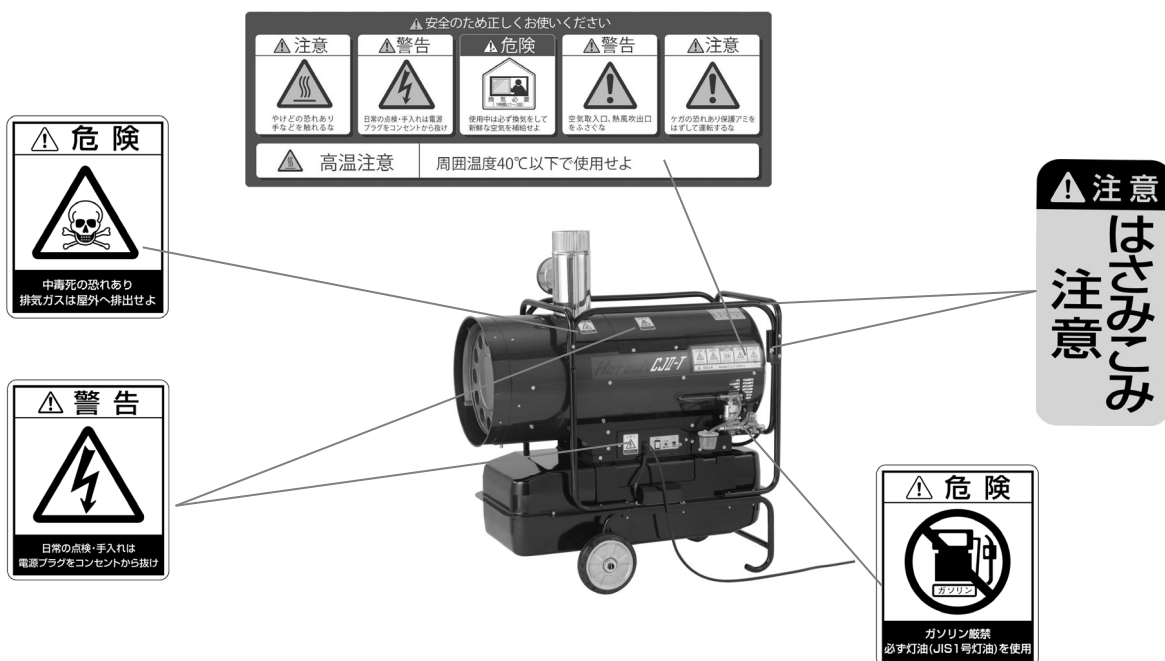
本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意（本体警告ラベル貼付位置）

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、重要警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒータ本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。

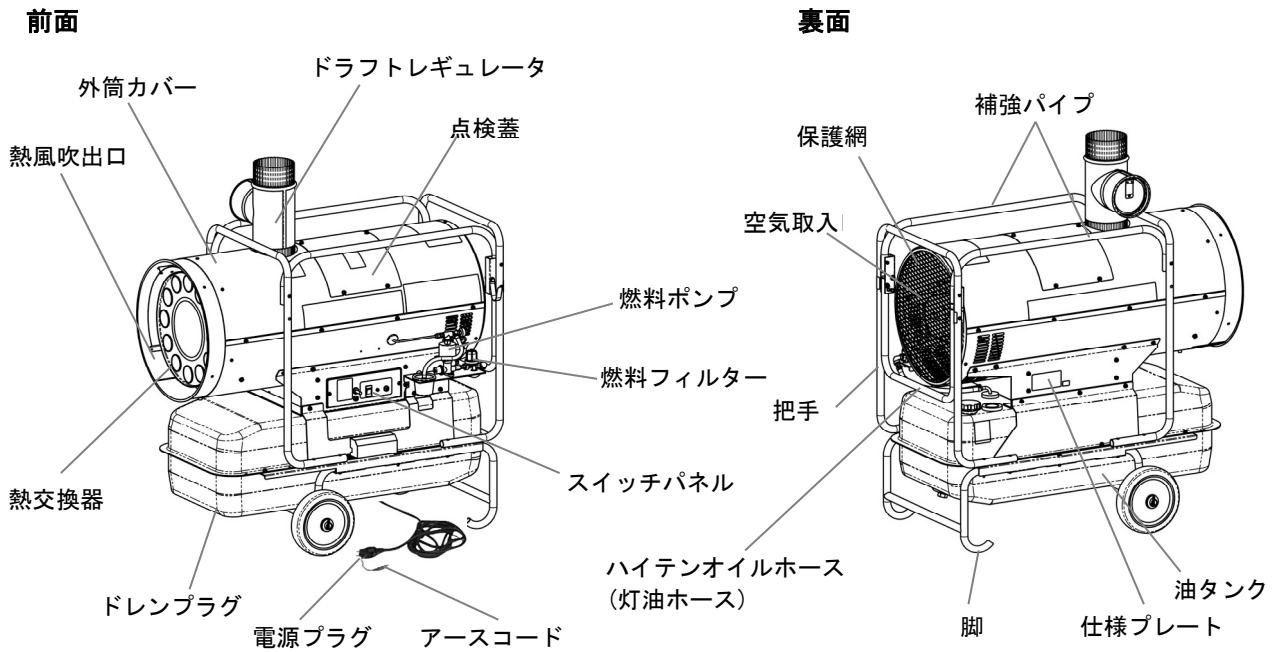
また、汚れ、傷などで見えにくくなった場合には、お買い上げの販売店に連絡し、新しいものに貼り替えてください。（有償扱いとなります）



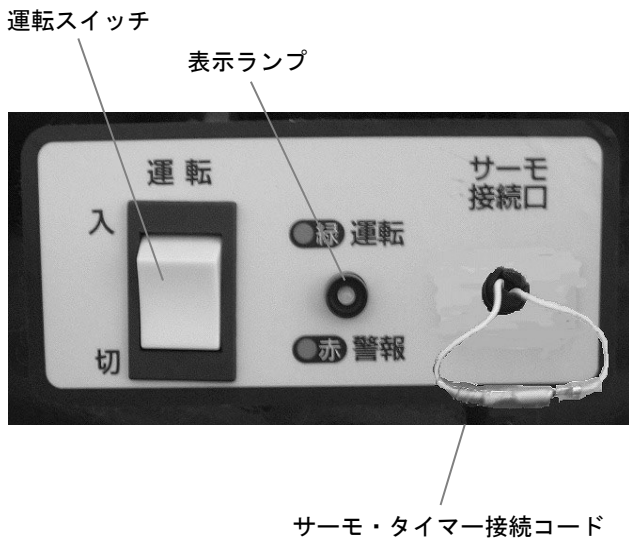
各部のなまえ

外観／スイッチパネル／点検蓋を開けると

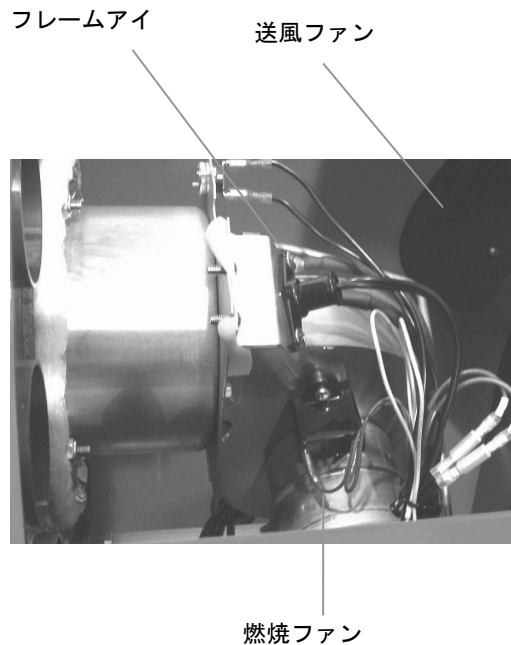
■外観



■スイッチパネル



■点検蓋を開けると



使用前の準備と確認

使用する場所／燃料

使用する場所

「安全のため必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意願います。

燃料

危険

- ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。灯油（JIS1号）を必ず使用してください。

警告

- 変質灯油、不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

1. 燃料はJIS1号灯油を使用する。
2. 変質灯油や不純灯油は使用しない。

- 変質灯油とは

- ・古い灯油（昨シーズンより持ち越した灯油）
- ・日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・温度の高い場所で長期間保管したもの

- 不純灯油とは

- ・灯油以外の油（ガソリン、シンナー、機械油、重油など）が混入したもの
- ・水やゴミが混入したもの

- 変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。

灯油とガソリンの見分けかた	
指先につけ、息を吹きかけます。 (火の気のない所でしてください。)	
灯油  濡れたまま。	ガソリン  すぐ乾いてしまう。

使い方

現品の確認と据え付け／空気取入口の設けかた

現品の確認と据え付け

1. 梱包箱からヒータを取り出す

- ・各部の梱包部材とチラシをすべて取り除く。
- ・使用地域の周波数とヒータ本体の仕様プレートに記載されている周波数が同じことを確認する。
- ・ドラフトレギュレータが入っていることを確認してください。

2. ヒータを据え付ける

- (1) 水平なところに置く。
- (2) ヒータの近くに燃えやすいものが置いていないか確認してください。

空気取入口の設けかた



危険

●新鮮な燃焼空気が常に補給できるように空気取入口を必ず設けてください。

酸素不足により、死亡事故につながり危険です。

●燃焼空気取入口は下記の点に注意して設置してください。

- (1) 空気取入口は、できるだけ床面近くに設けること。
- (2) 空気取入口は、流れ込んだ空気が、直接ヒータに吹き込んで燃焼に悪影響を与えないところを選ぶこと。
- (3) 空気取入口は、積雪、吹き溜まりなどで開口部が塞がれないところを選ぶこと。
- (4) 空気取入口は、屋外に面し、直接外気に通じることを開口すること。
- (5) 空気取入口の大きさは、1400cm²以上とすること。(□380 mm又はφ420 mm以上)

使い方

煙突の取り付けかた

煙突の取り付けかた



危険

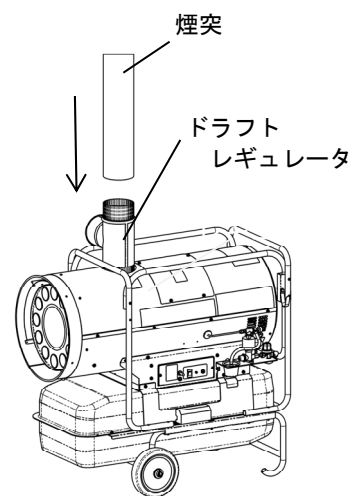
- 煙突は、排気ガスが必ず屋外に排出されるように設置してください。
- 煙突は、当社オプション部品（排気筒セット）をご使用ください。
一酸化炭素などが発生し、死亡事故につながり危険です。



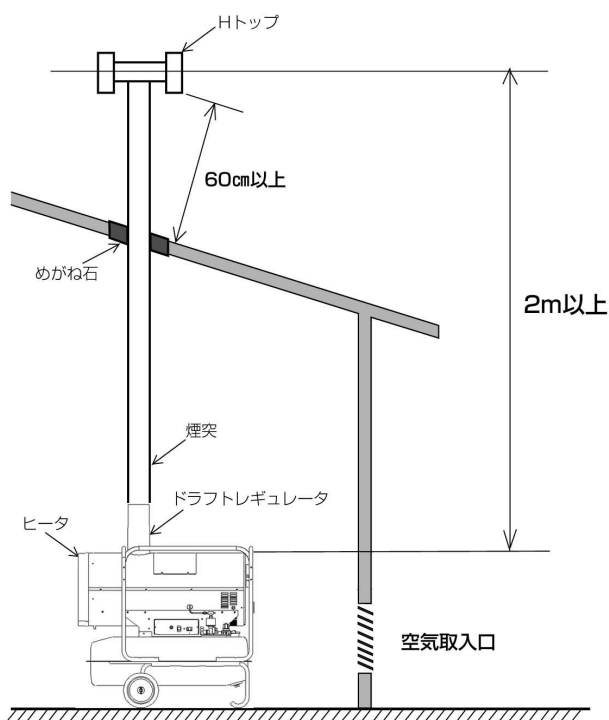
注意

- 煙突の壁及び天井等の貫通部は、不燃材料のめがね石を設けてください。
火災の原因になります。
- 横引き部分と曲りは、抵抗になるので、横引き部分はできるだけ短く、
曲りは少なくなるようにしてください。
熱交換器内にすすが付着したり、煙突より煙が出たりして異常燃焼・
火災の原因になります。

1. ドラフトレギュレータをヒータ本体に取り付ける
2. ドラフトレギュレータに煙突を差し込む
3. 煙突は倒れないように固定する

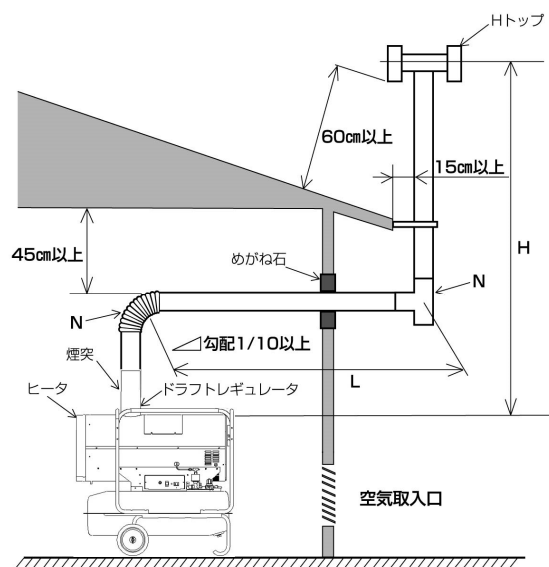


設置例 1



設置例 2

煙突を横引きする場合



横引き部分と垂直部分の長さは次による

$$H \geq 2 + 0.5L + 0.8N$$

H: 垂直部分の長さ (m)

L: 横引き部分の長さ (m)

N: 曲りの個数

使い方

ダクトの取り付けかた

ダクトの取り付けかた

注意

- ビニールダクトは純正品を使用してください。
- ダクトの径をすぎないでください。風量が減少して加熱効果が悪くなったり、ダクトを熱損傷することがあります。
- ビニールダクトを使用する時は、必ず防災ダクトを内側に取り付けてください。

1. ヒータ本体に耐熱ダクトを差し込む
耐熱ダクトは、ポリエチレンダクトが熱損傷する恐れがあるので必ず取り付けてください。
2. ヒータ本体に防災ダクトの上からビニールダクトを差し込む
3. ダクトバンドでダクトを固定する

防災ダクト



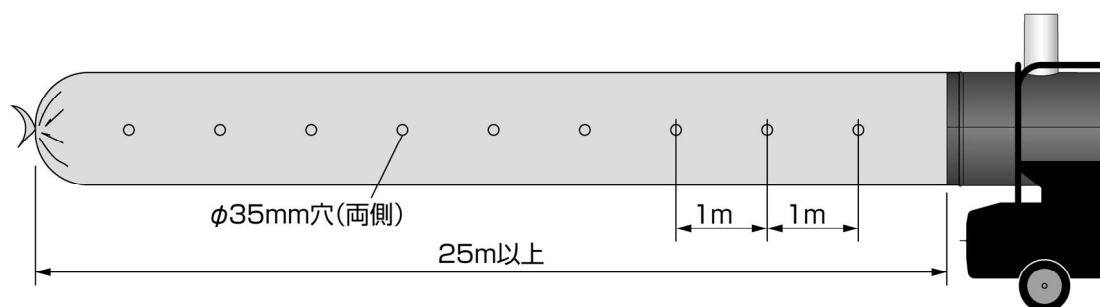
ダクトバンド

※HGCJ2-Tの燃焼中、コンセントを抜いた場合、または停電で停止した場合、防災ダクト・ビニールダクト・ダクトバンドが損傷する恐れがあります。

ビニールダクト



4. 穴あきダクトの先端を全閉にして仕様する場合は、ダクトの長さを25m以上にしてください。
ダクトが短いと抵抗が増し、安全装置が作動し停止します。
※穴あきダクト：ピッチ1mで両側にφ35mmの穴が開いたもの

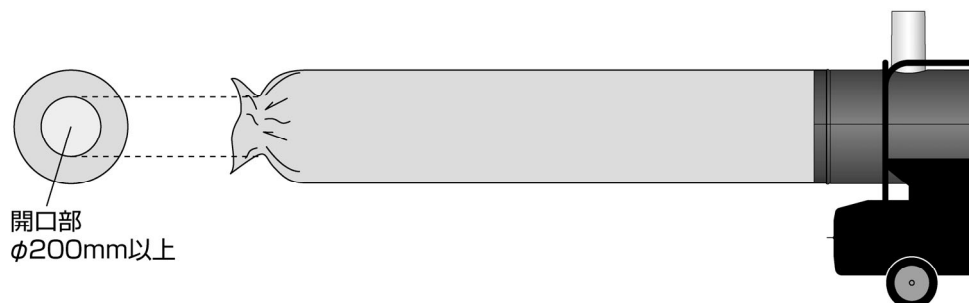


使い方

ダクトの取り付けかた

ダクトの取り付けかた

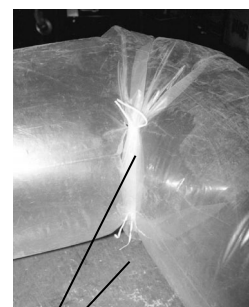
5. 穴無しダクトを使用しダクトの先端を絞る場合は、必ず $\phi 200$ mm以上の開口部を設けてください。
開口部面積が不足すると抵抗が増し、安全装置が作動しヒータが停止します。



6. ダクトの曲がりは抵抗になりますので、途中で急激に曲げたり、ねじったりしないでください。
安全装置が作動しヒータが停止します。

コーナー部は特に折れやすいので、ダクト径を確保できるよう工夫してください。

曲げの内側を写真の様に針金や洗濯ばさみ等で余ったポリダクトをまとめると折れにくくなります。



針金等でまとめる

* 写真の耐熱ダクト、ポリエチレンダクト及びダクト止め金具はオプション品です。
別途お買い求めください。

使い方

空気抜きのしかた／給油のしかた

空気抜きのしかた

注意

次のようなときは、運転スイッチを「入」にしても燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がして、点火しないことがありますので空気抜きを行ってください。

- ・お買い求め後、はじめて運転したとき
- ・油タンクが「空」になり、あらたに灯油を給油したとき
- ・その他 配管中に空気が入ったとき

1. カップに灯油が入っていないことを確認してください。
戻りホースの先端がカップに挿入されていることを確認してください。
灯油がカップに入っている場合は、カップをホルダーから抜き取って溜まった灯油を捨ててください。
2. 手動エア抜き弁を左に回して開けてください。
3. 運転スイッチを「入」にしてください。
4. 戻りホースに燃料が流れることを確認してください。
5. 手動エア抜き弁を締めると着火します。
6. 空気が抜けきらないうちに表示ランプが赤色で点灯した時は、運転スイッチを入れ直してください。



給油のしかた

注意

●給油時は必ず消火し、ヒータが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると火災・やけどの原因になります。

1. 給油口キャップを外す。
2. 油量計の目盛を確認しながら給油する。
 - ・給油口フィルターは外さずに給油してください。タンク内にゴミ等が入りますと送油回路の詰まりの原因になります。
 - ・いきおいよく給油すると給油口から灯油があふれることがあります。給油はゆっくりと行ってください。
 - ・油量計の目盛が「F」を超えて給油しないでください。灯油があふれます。
3. 給油が終わったら給油口キャップを確実にしめつける。

使い方

点火のしかた

点火のしかた



注意

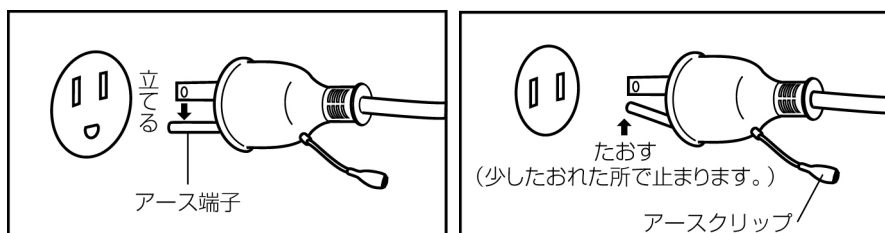
- 電源はAC100Vです。AC200Vコンセントには絶対に差し込まないでください。故障や感電、火災の原因になります。
- アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因になります。

1. 電源プラグをAC100Vコンセントに差し込む。

- ・表示ランプが赤色に点灯（停電安全装置作動）した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
- ・表示ランプが点滅していないことを確認してください。

重要事項

- 表示ランプが点滅（電源電圧が異常に高い）した場合は、即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。警報が出ても、ヒータには過電圧が印加されたままになっています。
 - ・コンセントがアース付の場合はイラストのようにアース端子を立てて差し込みます。
 - ・コンセントが2Pの場合はアース端子をたおして差し込んでください。（アース端子がたおれながら差し込まれます。）この場合は、プラグから出ているアースクリップを接地してください。



2. 運転スイッチを「入」にする。

3. 約10秒後に点火します。

- ・お買い上げ後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がし、表示ランプが「赤」で点灯します。この場合は、「空気抜きのしかた」を参照して行ってください。



注意

- 燃料切れ以外で点火操作を3回繰り返しても点火しない場合は、ヒータの異常が考えられますので点火をやめ、お買い上げの販売店へ連絡してください。点火操作を4回以上繰り返し点火すると、煙突より黒煙が出て火災の原因になります。

使い方

消火のしかた

消火のしかた



注意

- 電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、焼損の原因になります。また、過熱防止装置が作動する場合があります。
- ヒータ停止直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などはまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。

1. 運転スイッチを「切」にする。
2. 約 3 分間冷却運転を行った後、自動停止します。

使い方

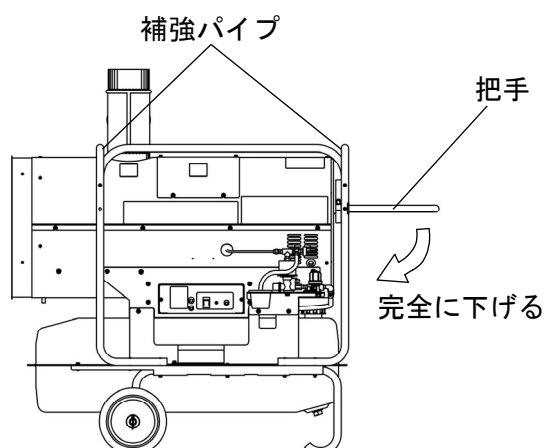
運搬のしかた／移動のしかた／延長コードを使用する場合

運搬のしかた

⚠ 注意

- ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、ケガの原因になります。

1. 図のように把手を下まで完全に下げ、補強パイプをしっかりにぎって運搬してください。

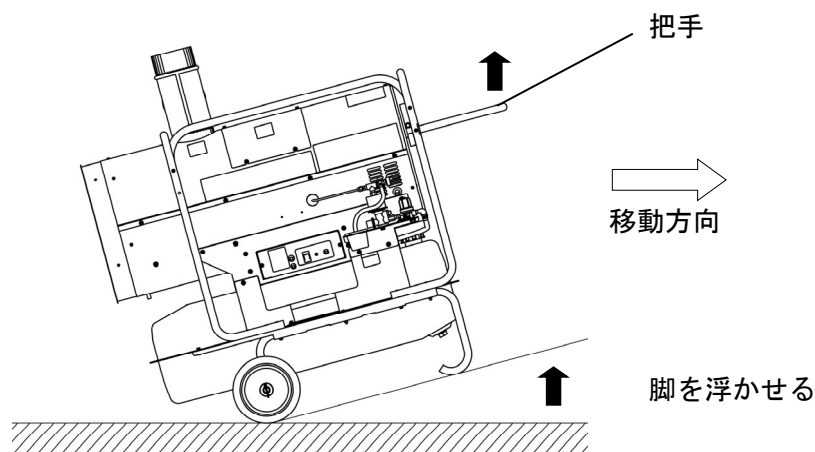


移動のしかた

⚠ 注意

- 火のついたままヒータを移動しないでください。やけどや転倒による火災の原因になります。

1. 煙突を取り外してください。
2. 把手を持ち、脚を浮かせて手前に引いて移動してください。



延長コードを使用する場合

延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

使い方

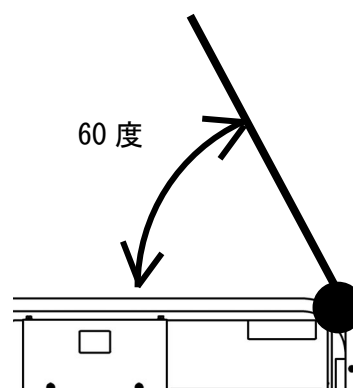
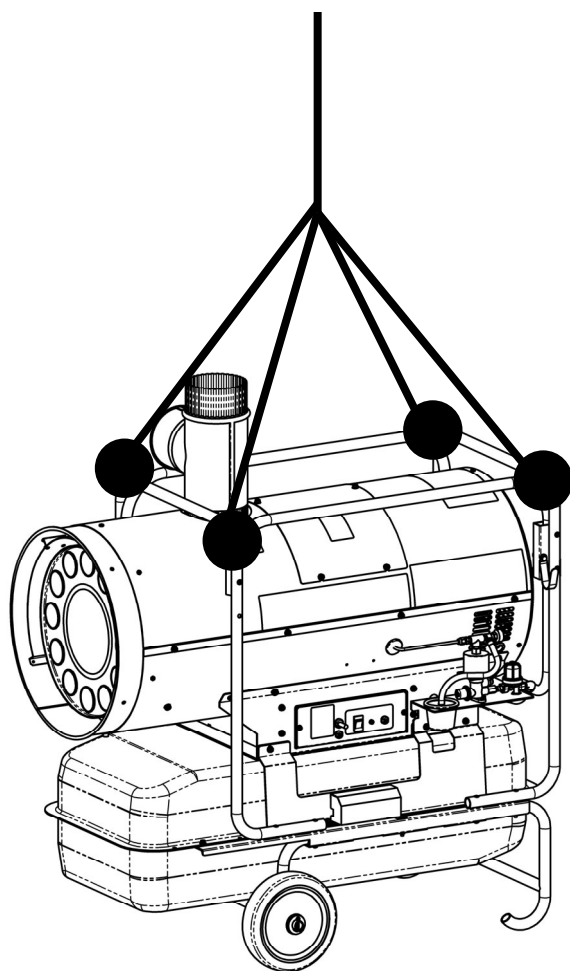
吊り上げのしかた

吊り上げのしかた

注意

●吊り上げ時は油タンクから灯油を抜き、4点吊りしてください。吊り上げ方法に不備があると、転倒や落下によりケガの原因になります。また、揺れにより油タンク内の灯油が漏れると火災の原因になります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 油タンクの灯油を抜く
3. 煙突、ドラフトレギュレータを取り外す
4. 補強パイプの角4点に吊り上げフックを掛けてください。
5. 徐々に吊り上げを開始し、各点の吊り角度が60度以上であることを確認してください。
6. 脚、車輪が地面から離れたら、吊りバランスを確認し荷役を実施してください。



点検・手入れのしかた

使うたびに



警告

- 運転状態の確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検・手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、送風ファンによるケガの原因になります。



注意

- ヒータ停止直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などはまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。
- ケガ防止のため、点検・手入れの際は、軍手などの保護手袋を着用してください。

使うたびに



警告

- 異常が認められた時は、ヒータの使用をやめ、お買い上げの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、ヒータ本体の焼損や火災などの原因になります。

1. 運転前の確認

- ・ ヒータ周囲の可燃物との距離は確保されているか。
また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ ヒータ本体に油漏れや油漏れの形跡が無いか確認してください。
- ・ 外筒カバーの塗装に変色（焼け）がないか確認してください。変色があるとヒータ内部に異常がある恐れがあります。

2. 燃焼状態の確認



注意

- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒータから 3m 以上離れて行ってください。

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ ドラフトレギュレータから黒煙が出ていないか。
- ・ Hトップから黒煙や白煙が出ていないか。
- ・ 煙突配管に外れや穴あきがないか。
- ・ 熱交換器の熱風吹出口側が異常に過熱され赤くなっていないか。
- ・ 異常音、異常振動がしていないか。

点検・手入れのしかた

1ヶ月に1回以上／1シーズンに2～3回

1ヶ月に1回以上

1. 油ストレーナ、エレメントの点検

- ・油ストレーナ内のエレメントを確認し、汚れているときは、エレメントの掃除してください。
- ・汚れが著しいときは、新品のエレメントと交換してください。（エレメントのご注文は、お買い求めの販売店に連絡してください。）

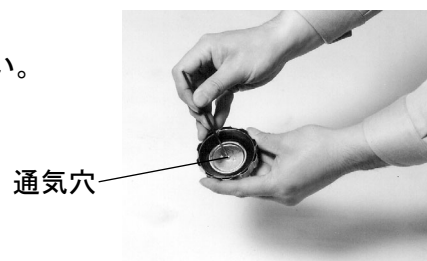
●エレメントの掃除のしかた

- (1) カップをゆるめて外す。
- (2) エレメントを外し灯油で洗う。
- (3) 元通りに組み立てる。



2. 給油口キャップ通気穴の点検

- ・給油口キャップを外し、通気穴が詰まっていないか確認してください。
- ・詰まっているときは、針金などでゴミを取り除いてください。



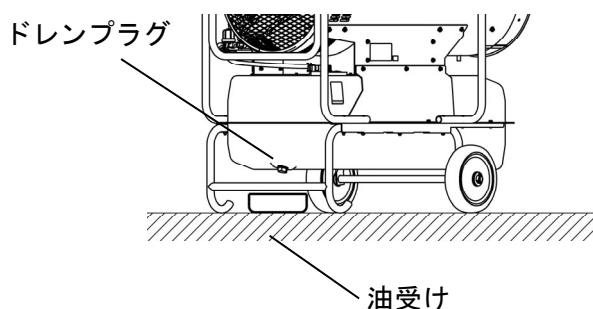
1シーズンに2～3回

1. 油タンクの掃除（水抜き）

- ・ヒータ保管時は必ず油タンクの掃除を行ってください。
- ・また、フィルターケース内に水が溜まっていたり、フィルターエレメントにゴミの付着が多い場合も同様に掃除を行ってください。

●油タンクの掃除（水抜き）のしかた

- (1) 油タンク内の灯油を、給油ポンプで抜く。
- (2) 油タンクのドレンプラグの下に油受けを置く。
- (3) ドレンプラグを外し、残った灯油をゴミや水とともに抜く。
- (4) ドレンパッキンが破損していないことを確認して、ドレンプラグと一緒に確実に締め付ける。



2. 対震自動消火装置の作動確認

- ・燃焼中にヒータをゆすって消火することを確認してください。

3. 燃焼状態の点検（黒煙の発生、異常過熱）

- ・粉塵等が多い使用環境によっては燃焼ファンに汚れが付着し、ドラフトレギュレータやHトップからの黒煙の発生、熱風吹出口側が異常に過熱され赤くなる等の不完全燃焼になります。燃焼状態の確認（23ページ参照）を行い、異常の場合はお買い上げの販売店へ点検の依頼をしてください。

4. フレームアイの掃除

- ・次の手順を参照し、フレームアイの掃除を行ってください。

5. 電源プラグの点検

- ・電源プラグにほこりが付着していないか点検します。
- ・電源プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いて使用してください。

点検・手入れのしかた

炎検出器の掃除のしかた

炎検出器の掃除のしかた

警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて作業をしてください。感電の恐れがあります。
- 送風ファンが止まっていることを確認してから作業をしてください。ケガの恐れがあります。

注意

- ケガ防止のため、フレームアイの掃除の際は、軍手などの保護手袋を着用して作業をしてください。

●フレームアイの掃除のしかた

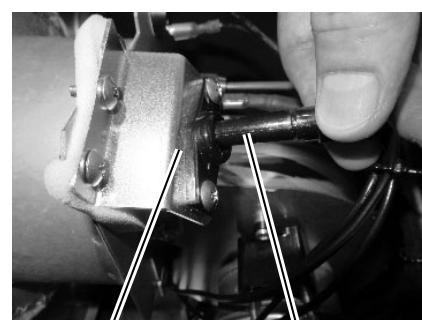
(1) 点検蓋をはずす

点検蓋を固定している6本のネジをプラスドライバーにて取り外し、点検蓋をはずす。



点検蓋

(2) フレームアイを採光管より抜く。



採光管

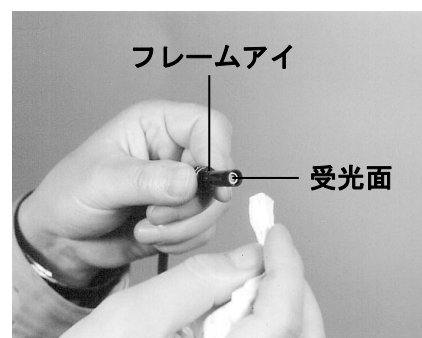
フレームアイ

(3) フレームアイの受光面のスス、ホコリ等を取り除く。 柔らかい布又は綿棒等で受光面についているスス、ほこり等を取る。

※フレームアイが入っている採光管先端部の穴が、ホコリで詰まっているときは、掃除してください。

(4) フレームアイを採光管差し込み元通りにする。

(5) 点検蓋を取りつけ、固定ネジ6本をプラスドライバーで締め付ける。



定期点検

長時間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため定期点検を依頼してください。(有償となります)

■実施時期

2シーズンに1回程度シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。

ただし、ほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ご依頼先

お買い上げの販売店

■定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置及び運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認など
4. 製品の清掃・整備

■定期点検費用

定期点検の費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処理内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

異常のとき

故障・異常早見表



警告

- 次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、ヒータの使用をやめ、お買い上げの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 再点火操作は繰返し 4 回以上行わないでください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、送風ファンによるケガの原因になります。

故障・異常早見表

現象	原因	処置のしかた
表示ランプが「赤」の点灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停電があった。 ・ 運転スイッチ「入」で電源プラグをコンセントに差し込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイッチを「切」にしリセットする。
燃焼中に表示ランプが「赤」の点滅（低電圧警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。
燃焼中に消火して表示ランプが「赤」の点滅（高電圧警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグをコンセントから即座に抜く。 ・ 電源電圧を 100±10V 以内にする。（警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します。）
表示ランプが「赤」の点灯（過熱防止警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送風ファンの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用をやめ、販売店に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱風吹出口に風が吹き込んでいる。 ・ 空気取入口にシート等が貼りついた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の原因を取り除き、本機が冷却するまで、運転をやめる。
表示ランプが「赤」の点灯（点火安全警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料切れで消火した。 ・ 炎検出器の受光面が汚れている。 ・ 燃料の不良（変質灯油、水の混入等）。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 油量計を確認し、給油する。 ・ 炎検出器を掃除する。（P23 参照） ・ 油タンクを掃除する。（P22 参照） ・ エレメントを掃除する。（P22 参照） ・ 通気穴を掃除する。（P22 参照）
表示ランプが「赤」の点灯（点火安全警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱風吹出口に太陽光が差し込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒータの向きを変える。
表示ランプが「赤」の点灯（対震警報）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒータが傾いている。 ・ 強い地震や振動、衝撃が加わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振動のない、水平な場所で使用する。
警報は出ないが燃焼状態が異常（煙突から炎の連続的な飛び出し、臭いがする、煙が出たり油ダレする 等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料の不良（変質灯油、水の混入等）。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 燃焼ファンが汚れている。 ・ 給油キャップの通気穴の詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表示ランプが「赤」の点滅時の処置を参考に確認する。原因が不明の場合は、使用をやめ、販売店に連絡する。
運転スイッチを「入」にしても運転しない。（運転ランプも点灯しない）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過負荷保護装置（ヒューズ）が作動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売店に連絡する。
電源プラグをコンセントに差し込むと、運転スイッチの「入」「切」にかかわらず表示ランプが「赤」の点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグをコンセントから即座に抜く。 ・ 電源電圧を 100±10V 以内にする。（警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します。）

安全装置が作動した

異常のとき

安全装置一覧表

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき	表示ランプ
対震自動消火	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。	「赤」の点灯
炎監視	点火ミスや燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。	「赤」の点灯
停電時安全	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。	「赤」の点灯
過熱防止	ヒータ内部が異常過熱したときに自動消火します。	「赤」の点灯
過負荷保護（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路を遮断し、運転停止します。	消灯
異常高電圧検知	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。	「赤」の点滅
電圧低下検知	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。	「赤」の点滅

●安全装置作動時は、「故障・異常早見表」（27 ページ参照）に従って、確認及び処置をしてください。

保管のしかた

⚠ 危険

●段積みをした状態では決して燃焼させないでください。

爆発、火災、やけど等になり危険です。

⚠ 注意

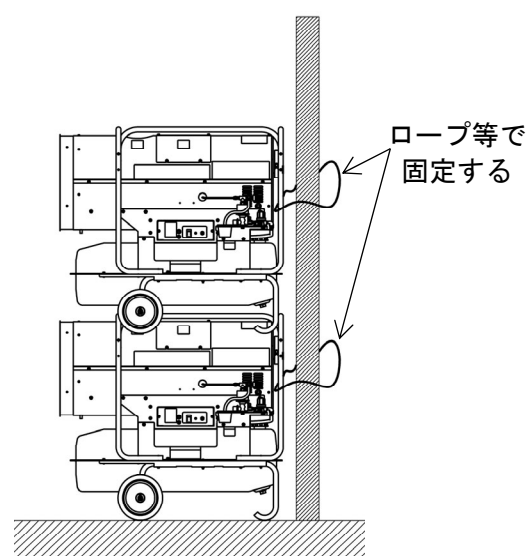
●灯油配管を接続したまま保管・廃棄しないでください。

火災の原因になります。

●保管時にヒータ本体を段積みする場合は2段積みまでにしてください。3段以上の段積みは転倒落下の危険があります。

また、段積み時には必ず転倒防止の処置を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 油タンクの灯油を抜く
 - ・「油タンクの掃除」（24 ページ参照）に従って灯油を抜いてください。灯油を抜かないと、溜まった水により油タンクが錆びて穴あきの原因になります。
3. ヒータ本体のほこりや、汚れを取り除く
4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する
 - ・雨水がかかったり、湿気の多いところには保管しないでください。
5. 保管時にヒータを段積みする場合は2段積み以下にし、必ず転倒防止の処置を行ってください。
ヒータ本体の保管は、右図の方法で行ってください。



ヒータの保管例

消耗部品

定期交換部品／点検交換部品

定期交換部品（指定された時期に定期的に交換する部品）

	部品名称	員数／台	交換時期※
1	フィルターエレメント	1	1シーズン毎
2	ノズル	1	3シーズン毎

※交換時期は、一般的な使用条件における予防保全（使用中の故障を未然に防止するために計画的に行う部品交換等）としての目安です。

※交換時期は保証期間ではありません。また、製品の使用環境、運転条件等により、交換時期前に交換が必要となる場合があります。

●ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

点検交換部品（点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品）

	部品名称	員数／台	点検時期	交換判定基準
1	ハイテンオイルホース（灯油ホース）	1	1シーズン毎	表面劣化の有無
2	給油口フィルター	1	1シーズン毎	破損の有無
3	給油口キャップ（オイルキャップ組立）	1	1シーズン毎	破損の有無
4	点火棒	1	1シーズン毎	消耗・変形の有無
5	燃焼ファンモータ（ブローモータ）	1	1シーズン毎	異音の有無、回転の状態
6	送風ファンモータ（モータ）	1	1シーズン毎	異音の有無、回転の状態
7	保護網	1	1シーズン毎	破損の有無
8	燃料ポンプ（電磁ポンプ）	1	1シーズン毎	異音の有無、油量の減少
9	クッションゴム	4	1シーズン毎	破損の有無

（注意）上記部品の交換は、専門技術を要しますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

別売部品

別売部品についてのご相談は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

1. 別売部品リスト

	部品名称	仕様
1	サーモスタットA	-10°C~50°C
2	サーモスタットB	0°C~100°C
3	サーモスタットC	40°C~90°C
4	タイマー24時間	15分刻みで燃焼時間設定
5	排気筒セット	
6	給油ホース	5m
7	ダクトバンド	
8	防炎ダクト	
9	ビニールダクト(穴無し)	折幅 0.7×50m
10	ビニールダクト(穴無し)	折幅 0.7×100m
11	ビニールダクト(穴ピッチ 1m)	折幅 0.7×50m
12	ビニールダクト(穴ピッチ 1m)	折幅 0.7×100m

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書をよく読んで使用してください。

2. サーモスタット・タイマーの接続のしかた

サーモスタットまたはタイマーを接続するときは、部品に付属の取扱説明書をお読みのうえ、次のように接続してください。運転のしかたは、部品に付属の取扱説明書を参照願います。

- (1) スイッチパネルのサーモ接続口に取り付けられている白いコードの端子を外す。
- (2) 外したコードのオス・メス各コネクタにサーモスタットあるいはタイマーのコードのコネクタを接続する。

アフターサービス

- 修理サービスを依頼される前に 27 ページの「異常のとき」をご覧ください、もう一度ご確認ください。
それでも異常のある場合は、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所（巻末参照）にご相談ください。
なお、ご相談の際には、製品の異常の状態と製品の型式名、お使いの製品の製造番号をお知らせください。
製造番号は「仕様プレート」（12 ページ参照）に記してあります。

- この製品には、1 年間の無償修理保証書が付いていますので、大切に保管してください。
なお、保証期間内に修理を依頼される場合は、保証書を添えてください。

- 下記の場合は保証の対象となりませんので、ご注意ください。
 - 1) ノズル・エレメントなど消耗品
 - 2) 誤使用により故障
例) 電源 200V 使用による電気部品の故障
 - 3) 火災・浸水・落雷などの災害によるもの
 - 4) 腐食性ガスの発生する場所で使用した場合の部品の腐食
例) 畜舎などアンモニアガス等発生する場所
 - 5) 変質灯油、不純灯油などを使用して故障した場合
 - 6) その他、取扱説明書に記載してある以外の使い方による故障

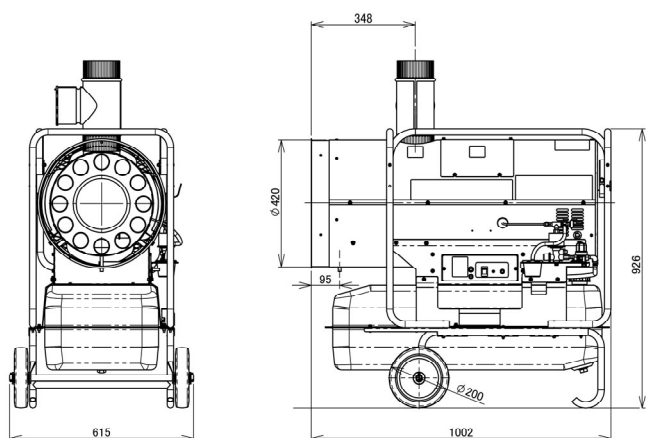
- 無償修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって性能が維持出来る場合は有償修理致します。
販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。
この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 6 年です。
 - 1) この期間は、経済産業省の指導によるものです。
 - 2) 性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

仕様

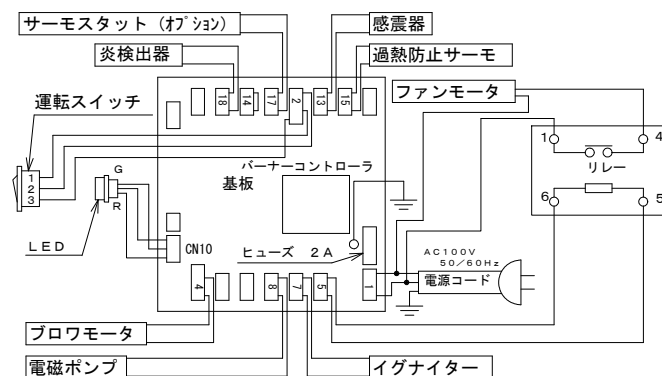
■仕様表

種類	熱風式間接形	
形式	HG CJⅡ-T-50	HG CJⅡ-T-60
熱出力	33.3kW	
燃料消費量	4.23L/h	
外形寸法	高さ 926 mm×幅 615 mm×奥行 1002 mm	
製品質量	75kg	
定格電圧及び周波数	100V 50Hz	100V 60Hz
定格消費電力	点火時 415W、燃焼時 400W	点火時 490W、燃焼時 470W
運転音	72dB	74dB
燃焼方式	高圧噴霧式	
安全装置	対震自動消火	
	炎監視	
	停電時安全	
	過熱防止	
	過負荷保護	
	異常高電圧検知	
	電圧低下検知	
ダクト口径	φ420 mm (折り幅 700 mm)	
ヒューズ	ガラス管ヒューズ (φ5.2×20、125V・2A)	
付属品	ドラフトレギュレータ・防災ダクト・ダクトバンド	

■外形寸法図 単位：mm



■配線図



製品保証書 [保証期間 1年]

形式：HG CJII-T	製造番号： —
お客様記入欄	販売店様記入欄
お名前	販売店様名称 印
ご連絡先	販売店様連絡先
ご購入日	

弊社は、上記の製品単体について、下記の通り保証いたします。

- | | |
|---|---|
| <p>(1) 保証期間中に、正常な使用状態において生じた、製造上の責任による故障又は修理につきましては、無償修理をいたします。
尚、無償修理において交換された部品は弊社の所有物となり、弊社が任意に処分できるものとしますのでご了承ください。</p> <p>(2) 次の場合は、保証期間中でも「有償修理」といたします。
(イ) 取組使用書に記載してある以外の使い方、誤った使用、過失及び整備、保管の不備により生じたと思われる故障等
(ロ) 納入後の転倒、衝撃、及び言語や純正以外のオプション、部品の使用が原因で生じたと思われる故障等
(ハ) 火災、地震、台風、暴風等の災害により生じたと思われる故障等
(ニ) 使用環境や経年変化により発生する現象
(ホ) ご購入の販売店や弊社指定のサービス窓口以外で修理されて故障した場合
(ヘ) その他上記に準ずるもの</p> | <p>(3) 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。
(イ) 保証書の提示がない場合
(ロ) 製品の性能等が、弊社規格内である場合
(ハ) 弊社製品の使用又は使用できなかったことによる二次的損害（過失利益の損害、事業の機会の損失、その他金銭的損害等）</p> <p>(4) この保証書は、お買い上げ時の領収書などの購入履歴のわかるものと併せて保管してください。</p> <p>(5) お客様がご記入されました個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全な稼働のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。</p> <p>(6) 保証書を紛失された場合の再発行はいたしかねますのでご注意ください。</p> <p>(7) 本機の保証は日本国内で使用される場合に限ります。
【 This warranty is valid only in Japan. 】</p> |
|---|---|

静岡製機株式会社



製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買い上げの販売店もしくは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。

静岡製機株式会社

北海道営業所 〒007-0804

札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号 TEL (011) 782-5294 (代) FAX (011) 782-8258

東北営業所 〒989-6136

宮城県大崎市古川穂波3-1-14 TEL (0229) 23-7219 (代) FAX (0229) 21-1464

関東営業所 〒175-0094

東京都板橋区成増1-17-2 TEL (03) 6904-3786 (代) FAX (03) 6904-0302

中部営業所 〒437-1121

静岡県袋井市諸井1300 TEL (0538) 23-1605 (代) FAX (0538) 23-1608

関西営業所 〒661-0032

兵庫県尼崎市武庫之荘東2-10-8 TEL (06) 6432-7880 (代) FAX (06) 6432-7487

九州(営)駐在 〒835-0004

福岡県みやま市瀬高町山門1841-1 TEL (0944) 88-9136 (代) FAX (06) 6432-7487